NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞を身近に感じ、活用できる力をつける

2．学校名

熊本信愛女学院高等学校(熊本県、私立)

3．実践者名（代表者名）

小森　要介

4．学年

第2学年(選択授業)

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

商業　2年生・選択者25人

6．単元（本時の学習課題）名

2年「秘書実務」の中で「NIE実践　全8時間」

7．目標（狙い）

(1)新聞記事に関心を持ち意欲的に探求しようとする　(2)数社の新聞を読み、紙面の違いや共通性を知る
(3)記事の切り抜き、スクラップノートの作成、記録ができ的確な感想を述べることができる。

8．評価の視点

(1)新聞ノートが継続的に記録できたか　(2)ワークシートの作成ができたか
(3)新聞の作成・発表を意欲的にできたか　(4)新聞を身近に感じるようにできたか

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

NIE実践　全8時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

実践1時間目　「新聞を読もう」
実践2時間目　「新聞ノートを作ろう」
実践3時間目　「新聞ノートを見比べよう」
実践4時間目　「高校生の就職内定状況を知る」
実践5時間目　「HAPPY NEWS 2009」に応募
実践6時間目　「講演会」
実践7時間目　「新聞を作ろう」　＜校内公開授業＞
実践8時間目　「新聞の発表」　　＜校内公開授業＞

＊事前に生徒の実態調査アンケートを行い、適切な目標設定を行う。
＊事前に学習指導案を準備し、板書計画などを詳しく準備する。
＊事前に学習指導案をもとにワークシートを作成し、生徒に学習のねらいなどを理解させる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

小・中学校では、新聞を読んだり壁新聞を作ったりしていたが、高校入学後は新聞に接する機会が減った生徒が多かった。しかし、実践を通じて過去の経験が生かされ、さらに記事に興味関心を持てるようになった。進路を決める高校3年生を迎える前に学習できたことを感謝する生徒が多かった。

12．成果と課題

NIEは通常の授業とは違い、教師が考える「学習のねらい」や「育てたい力」などが生徒に伝わりにくく授業への参加意識が高まらないという課題があった。しかし、生徒の実態調査アンケート・学習指導案・ワークシートなどを行うことで解決し充実した授業ができた。実践後は、読解力や表現力の向上が見られ、興味関心がある記事について自ら探求しようとする姿勢が育った。また、熊本県NIE推進協議会には、新聞の継続的な提供や新聞記者の派遣・講演会の依頼などにも柔軟に対応していただき、大変お世話になった。